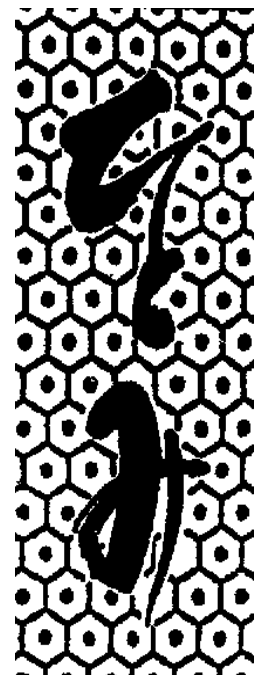


第77回定期大会 50名の参加で成功!

人とのつながりを大切に、笑顔あふれる職場づくりを!

「おかしい」の声を要求につなげよう!



広島市教職員組合
(全教)
全教職員版
No. 4
2023. 6. 15

全教広島HP

◎広島市教職員組合(全教)は、あなたの願いや要望を大事にして活動します。

◎子どものこと、学校のこと、自分の子育てのことなど、一人の悩みをみんなで見守ります。



(安芸区・小)

全教の人とのつながりが加入のきっかけになった。いま感じている「おかしい」として、妊娠障害休暇が7日しかなく、それ以上は病休とすることはおかし。また、今の先生の働き方にも疑問がある。多くの若い先生が、上から言われた仕事をやるのが当たり前と思っ

代議員の討論より



開会のあいさつ
中本副委員長

6月3日(土)、広島ロードビルで、第77回市教組(全教)定期大会を開催しました。運動会・体育祭のシーズンを迎える中、代議員の確保が心配されましたが、オンラインを含め代議員30名、執行部合わせて50名の参加で成功させることができました。開会のあいさつに立った中本副委員長は、先日行われたG7広島サミットに触れ、給食の中止や休校の判断がギリギリまで決まらず、学校現場が振り回される中、行われた運動会での子どもの躍動する姿を紹介しました。一方、サミットで公表された「広島ビジョン」で核抑止論を述べたことへの落胆と怒りの声を紹介し、今の政府の悪法オンパレードを批判。また給特法の改正論議について、「今の政府の方法では働き方改革にならない」とし、教育条件整備を求めようと『えがお署名』の紹介をしました。最後に「サミットを見た被爆



全会一致で
議案を採択



議長の谷田さん・坂本さん
議運の高森さん
お疲れ様でした。

激励のメッセージ

市教組(全教)の上部団体の「全教広島」から小林執行委員長にオンラインで参加していただき、激励のメッセージをしていただきました。(以下メッセージ抜粋)



「G7広島サミットは、いったい何だったのでしょうか。軍拡にむけた急激な動きやその他の悪法が次々と立てられる異常さに対して、私たちはどう対応していけばいいのでしょうか。それはいま社会で起きている様々なことをどれだけ語っていくか、また教材化していくか。①社会で起きていることについて、話し合う場を用意すること。②子ども自身の意見で討論に参加する機会をつくる。③その様子を教科通信などで表

明する。④平和を求める行動が広く行われていることを知らせること。でしょう。さらに職員室で一人の大人として政治・憲法についてしっかり語る必要がある。今を「新しい戦前」にしないために外に向かって発信できるよう学びましょう。」

他にも、広島市労働組合連合会の各団体からメッセージをいただきました。ありがとうございました。



いま多くの学校では若い先生が増えている。その中で結婚・出産が多くなり、育休(男性も)の取得も多くなっている。その中で妊娠時の休暇制度に「妊娠障害休暇(いわゆるつわり休暇)」が7日ということに疑問がある。個人差があることだが、7日では足りないのではないか。少子化問題や教員不足ということを考えると、子育てしながらも働きやすい職場でなくてはならないと思う。今年度はアンケートフォームでアンケートを実施している。一人でも多くの声を集めて、関係機関など行政に要求するためにぜひアンケートに協力してほしい。

(女性部)



(佐伯区・小)

この間、思い切っ



特別支援学校では、高等部が新設されることにもなっており、新校舎の建設が計画されている。結果当初の計画から大きく日程がずれ込むこと。学校では当初の予定で引越など計画していたが、計画の見直しを余儀なくされた。しかし、新しい計画では子どもたちや教職員に大きな負担がかかるため、学校から市教委に計画を見直すように求めたこととされた。また、県との契約のことで何ともならないとされた。もとをただせば、全て大規模化が原因によるもの。R6から教育課程が変わるようだが、市教委からの説明も遅く、はつきりと決まってい

(市立特支)



(養教部)

いま養護教員の複数配置を求める署名に多くの協力があり、感謝している。



過去の職場の様々なしんときが原因で体調を崩し休職していたことがある。そのときは所属感がなく、孤立感が日に日に増してきていた。そんなとき、全教の知り合いが気にかけてくれたり、役員の方からは、職場復帰に向けて多くの相談を聞いてもらい、アドバイスをたくさんしてくれた。そんな知り合いや役員の方は、当時の私にとって「学級担任」のようで、とても心強く、安心でき、復帰に向けた準備も落ち着いてきた。現在元気に務めることができ、あらためて全教の皆さんの温かきを感じ、感謝している。(南区・小)

大会宣言

要求で団結し行動する原則を貫き、子どもたちに平和な未来を手渡そう

2023年5月、ここ被爆地広島で、G7広島サミットが開催されました。マスコミ挙げて、「歴史的な意義のあるサミットになった」との大キャンペーンが張られ、まるで平和な世界に大きく近づいたかのような印象を受けますが、果たして本当にそうなのでしょうか。

このサミットではロシアを含めた世界の国々に不戦・核廃絶への協調を呼び掛けることが重要だったはずですが。被爆地出身をアピールする岸田首相が議長を務めるサミットだからこそ、核廃絶への具体的な行動を7か国自らが主張する宣言へ導くことが期待されていました。しかし結果は、核保有国とその傘の下にいる国が、核抑止論の正当性を主張する身勝手な言い分を宣言することとなりました。サミット後の、被爆者や被爆地の失望と怒りは当然です。今サミットがテーマとした「分断と対立から協調へ」とは反対に、分断と対立は一層深まったと言わざるを得ません。

また国内に目を向けると、サミット前の3月、広島市で平和ノートから「はだしのゲン」、「第五福竜丸」の教材が削除されました。この時期に合わせるかのように行われたこの変更には、特定の意図さえ感じられます。さらに国会では、安保三文書の改悪、大軍拡予算が成立し、日本はまさに戦争する国づくりに向け大きく舵を切ることとなってしまいました。

一方、サミットに関わる全体を見渡せば、新たな希望の光も見えました。世界の国が核兵器の廃絶について注目したこと、被爆者、若者、各種団体など幅広い層の人々が声を挙げたことなどは、まさに未来への希望です。

サーロー節子さんはサミット開催の数日前、母校で行った講演の中で「サミット後もこの気分(核廃絶への思いと行動)が続いていくことこそが重要である」と語りました。その言葉のように核廃絶を世界の世論とすべく、歩みを止めないことが、核廃絶への確かな道です。

この夏広島は、被爆78年を迎えます。戦後まもなく「教え子を再び戦場へ送らない」という誓いのもとに結集した広島市教職員組合(全教)も、今日、77回目の大会を迎えました。「要求で団結し行動する」という原則を貫き、昨年度も「非常勤講師の研修に関する措置時間の追加」や「子ども看護休暇の適用範囲が孫まで拡大」などの要求実現を果たしてきました。

しかし、未だ実現していない要求もあり、その実現のためには私たちの声を大きくしていくことが求められています。新型コロナウイルス感染症も、やや落ち着いた状況を見せています。今こそ職場で同僚とつながりましょう。教育実践の共同の取組はもとより、職場のロックバンドなど趣味のサークル、教育研究サークル、食事しながら語り合う会など、あらゆるつながりを創り出しましょう。そのつながりの多様さや広さが、仲間を迎える大きな力となり、要求実現を求める声を大きくしていきます。

わたしたちたち市教組(全教)は、今年もこの歩みを止めず、奮闘していきます。

2023年6月3日 広島市教職員組合(全教)第77回定期大会

「えがお署名」



定期大会で署名の取組期間の延長を決定しました。職場で語り合しましょう。

取組延長:7月7日まで

1つの職場で10筆ごとに
チョコレートを1つプレゼント!



今こそ職場で同僚性を発揮しましょう。 それが仲間を迎える大きな力に!



閉会のあいさつ
藤中執行委員長

G7サミットでは給食のことや休校のことが細切れに通知され、そのたびに現場は振り回され、多くの混乱を引き起こした。学校・教育・生活より、G7サミットが優先されてすすめられたことが、過去の国家総動員法と重なり嫌悪感があった。G7サミットに期待することはあまりなかったが、その中で市民レベルのシンポジウムなどの行動が様々なところで行われ、それがメディアで流れるのを見るたびに勇気と希望を感じることができた。

サーロー節子さんが「核兵器廃絶の声を決めずにはあげ続ける必要がある」と語っていた。声とは要求のこと。私たち市教組(全教)は、要求を掲げ、要求実現に向けて集まった仲間。同じ要求を持つ方を仲間へ招き一緒に運動してもらうためにも、私たちが職場で活動を語っていくことが求められています。今こそ同僚性を発揮するとき!それが仲間を迎える大きな力になる!

代議員の討論の続き

青年部会議を4月5月と行ってきて。話し合いの中で『平和公園の碑巡りを自分でできるようになりたい』という話題が出た。教員が自分の言葉で語る意味を共有できた。青年部では7月に平和公園のフィールドワークを計画している。数名の講師を招いて行う予定。青年がどこに問題意識を持っているのか、何を求めているのか、掘り起こしながら、活動をすすめていきたい。(青年部)



年ごとに特別支援学級数が増加している上に、2022年1月の調査によると通常学級在籍で、支援を必要とする児童生徒が8・8%もいるとのこと。これは「現在の指導要領が適切ではない」という子どもの悲鳴とも言える。通常の学級で豊かな教育がとや特別支援学級で個に応じた適切な教育が受けられないことが喫緊の課題。そのためには、学習サポーター、指導員、教職員の数を増やし、子どもたちに適切な教育が受けられるよう、労働教育条件改善のために全教の仲間と力を合わせて取り組んでいきたい。(西区・中)



公立高校の入試制度改革後初めての入試が行われた。これによる公立高校離れが気にされている。実際、ある私立高校では入学者数が非常に多くなっている。また、今年度から自己表現に向けたカリキュラムが中1から検討されていることや、学力検査が1日で行われるので、校内テストも1日で行うようにしている中学校もある。



自己表現に対して、習い事をしていく方が有利ではないかという考えも出ている。一方、従来通りの面接で志望理由や高校で頑張りたいことを聞く方が高校側としては良かったのではないかと感じている。(西区・中)



(佐伯区・小)

広島市の文化を守りたい

老朽化する広島市立中央図書館をエールエールA館へ移転するとされていますが、多くの点で疑問があります。市教組(全教)はこの運動に賛同します。『おかしい』の声をあげましょう!

いま広島市政は「にぎわいづくり」に「ごんごん税金をつぎ込み、教育・医療・福祉・文化がないがしろにされている気がします。広島市立中央図書館の移転問題もその市政の一つだと思えます。各地の市立中央図書館は、その都市の機関図書館として重要な役割があります。広島市の中央図書館は、『平和の軸線上』に建っていることでもわかるように、平和の文化を語り継ぐ図書館であると同時に、国連の機関図書館としても位置づけられており、世界中の図書館です。それが中古の商業ビルの一角に移転することにも違和感があり、強く反対しています。市議会での決め方にも多くの疑問を感じています。広島市は原爆の惨禍から復興をしてきた街で、世界に平和を発信する重要な街です。その平和を学ぶために



自分たちで作詞作曲した「だいすき図書館」を歌う「広島市の文化の未来を考える教職員の会」の皆さん